

PRESS RELEASE

東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム
ふじのくに野外芸術フェスタ2020 静岡 宮城聰演出SPAC公演

アンティゴネ

2017年仏アヴィニヨン演劇祭、2019年ニューヨーク公演にて絶賛！
2019年、米 TIME 誌が選ぶ演劇公演・年間ベストテン、第6位にランクイン！

宮城聰×SPAC の話題作

2020年5月2日-5日、静岡・駿府城公園に凱旋。



ANTIGONE (photo : Stephanie Berger/ Park Avenue Armory, NY)



TOKYO 2020
NIPPON
FESTIVAL

Tokyo 2020 NIPPON Festival Official Partner

ENEOS



Tokyo 2020 NIPPON Festival Supporting Partner

Canon

東京海上日動

MIZUHO

ANA

Hisamitsu

清水建設

Tokyo 2020 NIPPON Festival Associating Partner

NEC

味の素

アース製薬

TANAKAホールディングス

乃村工務社 パーク24 パナソニックグループ



TOKYO 2020



TOKYO 2020

PARALYMPIC GAMES

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

宮城聰演出SPAC公演 『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田稔子・坂本彩子」までご連絡下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / Fax : 054-203-5732 / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

2020年5月、SPAC『アンティゴネ』が世界の観客を静岡に迎える——

宮城聡×SPAC（静岡県舞台芸術センター）の代表作『アンティゴネ』は、東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラムとして、2020年5月2日～5日、静岡市の駿府城公園にて上演されます。

『アンティゴネ』は、2017年、世界最高峰の演劇の祭典「アヴィニオン演劇祭」から招聘を受け製作されました。フランス公演に先立ち5月、静岡市・駿府城公園での「ふじのくに野外芸術フェスタ 2017」にてアヴィニオン演劇祭の約1/3サイズの舞台でプレ公演を行い、7月、演劇祭のオープニング作品として客席数約2,000のメイン会場「アヴィニオン法王庁中庭」にて上演されました。人を善悪に二分しない王女アンティゴネの思想に、「死ねばみな仏」という日本人の死生観を重ねた独創的な演出、加えて幅40m・奥行15mの舞台全面に水を張る創意に富んだ装置や、高さ30mの法王庁の壁面に俳優の影を映し出す仕掛けは、大きな反響を呼びました。

本作は2019年秋、国際交流基金による「Japan 2019」の公式企画として、ニューヨークの「パーク・アベニュー・アーモリー」で上演され、開幕翌日のニューヨーク・タイムズ電子版が「霊妙で瞑想的な異世界に引き込まれる」と激賞。さらに、米国版TIME誌が選ぶ2019年の演劇公演ベストテンの第6位にも選ばれました（アジアの演劇作品としては初のベストテン入り）。

2020年5月の凱旋公演では、アヴィニオンやニューヨーク公演の規模に迫る劇空間が出現します。同時期に開催する「ふじのくにせかい演劇祭」・「ストレンジシード静岡」と一体となり、舞台芸術を中心にしたフェスティバル・シティとして、世界からの観客を静岡にお迎えします。



ANTIGONE (photo : Stephanie Berger/ Park Avenue Armory, NY)

宮城聡演出SPAC公演『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田稔子・坂本彩子」までご連絡下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / Fax : 054-203-5732 / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

開催概要

東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム
 ふじのくに野外芸術フェスタ2020 静岡 宮城聡演出SPAC公演

『アンティゴネ』

- 公演日：2020年5月2日(土)・3日(日・祝)・4日(月・祝)・5日(火・祝) 各日18:45開演 [全4公演]
- 会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場
- 主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会
- 共催：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
 静岡県文化プログラム推進委員会
 静岡市

◆構成・演出：宮城聡 / 作：ソポクレス / 訳：柳沼重剛 / 音楽：棚川寛子 / 空間構成：木津潤平
 衣裳デザイン：高橋佳代 / 照明デザイン：大迫浩二 / ヘアメイク：梶田キョウコ

◆出演：SPAC／美加理、本多麻紀、赤松直美、阿部一徳、石井萌水、大内米治、大高浩一、加藤幸夫、貴島豪
 小長谷勝彦、榊原有美、桜内結う、佐藤ゆず、鈴木真理子、大道無門優也、武石守正、館野百代
 寺内亜矢子、永井健二、野口俊丞、布施安寿香、三島景太、宮城嶋遥加、森山冬子、山本実幸
 吉植荘一郎、吉見亮、若菜大輔、渡辺敬彦

チケット

発売日 一般販売り開始 3月8日(日) 10:00～

料金 一般：4,200円
 ペア割引：3,700円 (2名様で1枚につき)
 ゆうゆう割引：3,500円 [満60歳以上の方]
 学生割引：2,000円 [大学生・専門学校生] 1,000円 [高校生以下]
 ※その他グループ割引、障がい者割引がございます。

チケットお取り扱い

SPACチケットセンター TEL：054-202-3399 (10:00～18:00／休業日を除く)
 ※SPAC公式サイト、静岡芸術劇場・劇場窓口でもご購入いただけます。

宮城聰演出『アンティゴネ』の上演歴

- ・2017年5月4日～7日 [全4公演]
 会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場特設会場（客席数：約500席）
- ・2017年7月6日～12日 [全6公演] ※アヴィニオン演劇祭オープニング公演
 会場：アヴィニオン法王庁中庭（客席数：約2,000席）
- ・2019年9月25日～10月6日 [一般公演：全11公演／鑑賞事業公演：全1公演]
 会場：パーク・アベニュー・アーモリー「ウェイド・トムソン・ドリルホール」（客席数：約1,000席）

2017年アヴィニオン公演における現地での劇評

- 「ル・モンド」紙 2017. 7. 8

2014年、ブルボン石切場で上演した『マハーバーラタ』で人々を魅了した「美」。我々は法王庁に、あの「美」を再び見出した。

2017年アヴィニオン公演における観客のコメント

- フランソワーズ・ニセン氏（フランス文化大臣）

昨日の公演は衝撃でした。本当に。何と言っても「時間」という概念の捉え方ですね。物事はどのように移り変わってゆくのか。あの演出の肝はやはり「時間」をどう扱うかという点にあって、それにあの水と衣裳と…とにかく圧倒されました。全く新しい『アンティゴネ』の在り方に目を開かれたという気持ちです。過ぎ去った時間を眺めて…今の私たちに必要なことだと思います。

- ルイ・シュヴァイツァー氏（元ルノー自動車会長兼CEO・アヴィニオン演劇祭理事長）

ブルボン石切場での『マハーバーラタ』に続き、法王庁でこれほどの舞台はなかなか観ていません。

- オリヴィエ・ピィ氏（劇作家、演出家、俳優、アヴィニオン演劇祭ディレクター）

偉大な芸術であると同時に誰をも楽しませる。それが我々の考える「民衆演劇」で、宮城聰さんは期待にこたえてくれた。権威あるギリシア悲劇の専門家が、ダンスや音楽に合唱（コロス）をまじえた今回の上演は古代の上演イメージに最も近いと評していた。難しい空間を模範的に使っていたと思う。

2019年ニューヨーク公演における現地での劇評

- 「ニューヨーク・タイムズ」 2019. 9. 27

この日本風にアレンジされたギリシア悲劇は、視覚的にも聴覚的にも壮麗である。（中略）何と言っても特筆すべきは、宮城氏の演出によって生みだされる観客の本能に訴えるような演劇の力である。古典的な手法と現代的な手法を巧みに掛け合わせることで、権力狂の王の残酷な命令に命懸けで立ち向かう主人公の女性を描いたこの物語が、時代を超越しつつも同時に緊迫感の漂う舞台作品となって観客の前に蘇った。特定の解釈が押し付けられることなく、怨恨に満ちた現代に生きる我々の胸に物語の真髄がダイレクトに響いてきたのだ。

- 「ニューヨーク」誌 2019. 9. 26

宮城版「アンティゴネ」は生者に関する物語ではなく死者のための儀式であり、またこれによって両者を分け隔てる境界線の危うさが顕在化している。この作品は、むやみに観客の情緒を揺さぶるのではなく、もっと深い本質的なところで見者に感動を呼び起こすのだ。（中略）宮城版「アンティゴネ」の美しさは、「死」とは何かを表現しようとした結果、それが「生」に関する冷静だが冷酷ではない考察に繋がっているところにある。

- 「タイム」誌（米国版） 2019. 12. 16号／TIME誌が発表する2019年の演劇公演 年間ベストテンの第6位に選出

圧倒的。約2500年前のソフォクレスによる演劇の日本語バージョンである本作は、能や仏教哲学を想起させ、水を張ったプールの中でほぼ全編を上演した。さらにはワールドクラスの打楽器奏者たちによる魅力的な劇伴のおかげで、今年私が出席した中でおそらく最高に魅惑的なコンサートでもあったと言える。

宮城聰演出SPAC公演『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田稔子・坂本彩子」までご連絡下さい。

Tel : 054-208-4008（舞台芸術公園） / Fax : 054-203-5732 / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

SPAC-静岡県舞台芸術センターについて

公益財団法人静岡県舞台芸術センター (Shizuoka Performing Arts Center : SPAC) は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。

演出家プロフィール 宮城聡 (みやぎ・さとし)



1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

東京2020 NIPPONフェスティバル

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典だけではなく、文化の祭典でもあります。東京2020組織委員会は、東京2020参画プログラムの集大成として、2020年4月から大会に向けた機運を最大化し、国内外へ日本の様々な文化をPRするため、「東京2020 NIPPONフェスティバル」を展開します。「東京2020 NIPPONフェスティバル」は、世界の注目が日本・東京に集まる2020年3月頃から9月にかけて実施される、東京2020大会の公式文化プログラムです。日本の誇る文化を国内外に強く発信すると共に、共生社会の実現を目指して多様な人々の参加や交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人々が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、大会に向け期待感を高めることを目的としています。



★東京2020 NIPPONフェスティバル 特設ページ・・・<https://tokyo2020.org/jp/special/festival>

ふじのくに野外芸術フェスタ

広場や公園、路上など、身近な場所でアートに出会えるお祭り「ふじのくに野外芸術フェスタ」。2013年より毎年開催され、これまでに静岡市葵区の駿府城公園、同清水区のマリンパークをはじめ、富士宮市、浜松市、伊豆の国市、三島市、藤枝市、掛川市、袋井市にて実施。国内外のアーティストによる屋外スペースでのサイトスペシフィックな舞台作品を上演しています。

静岡県文化プログラム 2020 フェスティバル

静岡県では、「地域とアートが共鳴する」をテーマに、2020年を「静岡県文化プログラム 2020 フェスティバル (ブンプロ・フェス)」に位置づけ、SPACによる『アンティゴネ』の上演を始めとして、切れ目なく静岡県内各地で多彩な文化プログラムを展開します。



★静岡県文化プログラム (ブンプロ) ホームページ・・・<https://shizuoka-ac.org>

宮城聡演出SPAC公演『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田稔子・坂本彩子」までご連絡下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / Fax : 054-203-5732 / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

同時開催

ふじのくにせかい演劇祭2020

2020年4月25日(土)～5月6日(水・祝)

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

ゴールデンウィークの静岡で開催される「ふじのくにせかい演劇祭」では、世界の演劇シーンをリードする演出家たちの新作／日本初演作が一堂に会します。

静岡県が設立した劇団SPACが主催するこの演劇祭は、2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」の名称でスタート。2011年より名称を「ふじのくにせかい演劇祭」と改め、2020年に開催21回目を迎えます。「ふじのくにせかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界が、演劇を通してダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携し、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくにせかい）」を理念としています。

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

助成：令和元年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業 ふじのくに芸術祭共催事業

festival-shizuoka.jp

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

2020年5月2日(土)～5月5日(火・祝)

会場：駿府城公園、静岡市役所・葵区役所、常盤公園など静岡市内

静岡の街が劇場になる。いつもの街を「劇場」に変える、演劇・ダンスなどが街にあふれ出すパフォーミングアーツの祭典です。「『まちは劇場』の推進」の一環として、街なかでのパフォーマンスを無料でご覧いただけるイベント。国内各地のみならず海外からも気鋭のアーティストたちが集結し、静岡の街を熱くさせます。夜間公演も開催し、夜の静岡の街でのパフォーマンスもお楽しみいただけます。

主催：静岡市 共催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

www.strangeseed.info



2019年『ふたりの女』／舞台芸術公園・野外劇場「有度」©平尾正志



2019年 HURyCAN／静岡市役所 ©猪熊康夫

宮城聰演出SPAC公演『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田稔子・坂本彩子」までご連絡下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / Fax : 054-203-5732 / E-mail : uchida@spac.or.jp

sakamoto@spac.or.jp